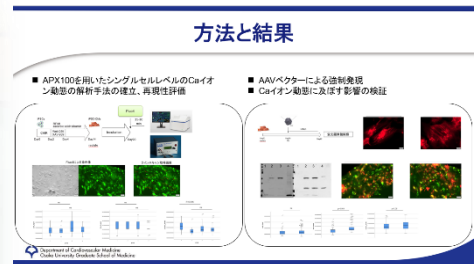


2023年2月16日、基礎研究室配属5年次学生さん研究発表会を行いました！

基礎研究室配属のため、当研究室で研究に取り組んでくれた5年次学生さんの研究発表会(+テイクアウト慰労会)を行いました！2023年1月~2月の短い期間でしたが、2名の学生さんが、サルコメア遺伝子バリエントがiPS細胞由来分化心筋細胞のカルシウム動態に与える影響、抗がん剤のドキソルビシンがiPS細胞由来分化心筋細胞に与える影響を検討し、その研究結果を発表しました。大学院生先生方の指導のもと、2名ともしっかりした実験、研究発表をおこなってくれました。学んだ技術や、臨床と基礎を結び付けた考え方を、是非将来の診療に活かしてほしいと思います。おつかれさまでした。



ドキソルビシン(DOX)の心筋障害

• DOXは心毒性を有する代表的な抗がん剤であり、その心筋障害は総投与量に比例して出現する。
(J. 新薬製薬ガイドライン2018)

DOX投与量	発症率(%)
400mg/m ²	3~5
550mg/m ²	7~26
700mg/m ²	18~48

• 心毒性や心機能低下は薬剤中止後も不可逆的に残存することが多く急性期を脱した後も機能的な治療が必要になることもある。

DOXがどのように心筋を障害するのかについてはまだ解明されていない